

谷柏報



せせらぎ公園 令和2年2月
撮影:横内吾一 (柏谷18組)

瑞穂のくにの
ものがたり

日枝神社宮司 泉明寺みずほ

ああ、なんと感慨深い。とうとうこの春から大学生になるのだ。「大きくなったらピンクのパンダちゃんになりたいです!」と夢膨らませていた、どちらかという子ブタちゃんみたいなうちの娘が、J D(女子大生)になるのだ。しかし、残念なことに感染拡大した新型コロナウイルスのため、様々な行事は縮小か中止。卒業式も在校生なし、クラス単位での開催となった。式当日まで登校す



ることが出来ず、名残り惜しむ間も無く
恩師や友や校舎と別れゆくことになる
ため、切ない気持ちで胸がいっぱい
になっている、のは娘ではなくわたし。
アラフィフの乙女心を総動員させ、涙
がつきものの行事に(勝手に)想いを馳
せ、目下酔いしれているところなのである。因みに、当
の娘は都会デビューに浮き足立ち、目を輝かせながら「表参道、カフェ、おススメ」などのキーワードで検索
に余念がない。もう、思いは卒業式の向こうにある。

さて、私自身の式は今からもう30年以上前の事だ。娘と違って私はとてもセンチメンタル。大事な青春の心のカケラを取り残してきてしまったような、いつまでも校庭に留まって佇んでいたいような気持ちに溢れ、式は済んだというのに、友と共に校舎をまわり、たくさんの記念写真を撮った。そして図々しくも最後に訪れた



校長室では、先生からこんな言葉をいただいた。「日本語は実に面白い。しっかりと結びまで聞かないと、本当の意味が現れてこない。『私はあなたが好き…ではない…わけではない』というセリフ。好きと言われて嬉しい！と舞い上がったらずで否定されてがっかり。と思いきや本当はハッピーエンド。とね。きみたちも、人の話は最後までよく聞き、理解をしてから判断すること。そして、母国語の美しい響きを大切に下さい。」このような内容だった。もしかすると危なっかしい無知な我々をたしなめただけなのかもしれないが、私にとっては未だ忘れる事のない(今は亡き)校長先生からの贈る言葉である。



さて、今の私の琴線にふるる曲といえば「仰げば尊し」の一択だが、古式ゆかしいというか、古めかしい歌詞からすると日本生まれの歌かと思いきや、実は原曲はアメリカ産らしい。タイトルは「ソング・フォー・ザ・クローズ・オブ・スクール」と、とてもわかりやすい。よいメロディなのだが、この頃はあまり歌われないらしく、というのも「見上げるほどに尊い恩師への恩義」といった感覚が（先生に対しての感謝はあっても）しっくりこないのかもしれない。なお、ここで改めて書く程の事でもないが、歌詞の中の「今こそわかれめ」は分かれ目ではなく、今まさに別れよう！の意味。「め」は「～しよう」という意思や決意を表す助動詞。と、訳知り顔で娘に教える授けようとしたが、むげもなく「知ってる」の一言であった。もうこれから母が教えることはどんどん少なくなっていくのだなあ。

AED講習会



函南町消防団の女性団員の協力により、今年もAED（自動体外式除細動器）の講習会が、組長会終了後に開催されました。講習会では、AEDの使用方法の他、人体模型を使っ



た心肺蘇生法の体験も行った。講習会には多くの組合員さんたちが参加し、人命救助の手順や方法を習得する良い機会となりました。

編集後記

平成33年4月から始まった令和元年度も年度末を迎え、いよいよ新しい令和2年度の始まりです。柏谷区でも新市長のもと、新年度の体制が動き出しています。

しかし何となくすっきりしないのは、やはり新型コロナウイルスの影響でしょうか。何でもかんでも中止・取り止め、良くて縮小、延期です。冬が去りようやく春が来たというのには、プロ野球もJリーグも高校野球も始めず、気分も沈滞しがちです。これらの中は、大震災の時などとはまた違った、これまで経験したことのないような困難な状況に直面しています。柏谷区の活動もその例外ではなく、毎年行っている行事や活動を、どのように行っていくのか、果たして行うことが出来るのか、悩ましい限りです。

この騒動が早期に収まって、コミュニティ活動の核である行事や祭りが、今年も滞りなく行われると良いのですが…。

発行 柏谷区広報委員会

叡島神社・地神様



葦島神社

厳島神社での式典の様子



一本松での地神様の神事

¹ 後島神社式典

3月8日
の日曜日、
柏谷公園の
南に隣接
する厳島
神社で、冷
たい雨の降
り続く中、式典が行われました。
厳島神社式典の後、場所を
一本松に移し、地神様の神事
が行われました。



厳島神社式典

3月8日
の日曜日、
柏谷公園の
南に隣接
する厳島
神社で、冷
たい雨の降
り続く中、